

## 3感を育む 子育ての20のポイント

- 1 乳児期の赤ちゃんの要求は 全部かなえてあげましょう 信頼の感情が育ちます
- 2 抱きぐせは心配ありません むしろ正常です 目一杯だいてあげましょう
- 3 子どものわがままは セルフコントロールの練習です
- 4 子どもと喜びあう体験をたくさんしましょう 感情が豊かに育ちます
- 5 過保護は問題ありません 過干渉は子どもの主体性を損ねます 嫉のしすぎは過干渉です
- 6 「こうしなさい」「ああしなさい」「これはいけません」といいすぎないようにしましょう
- 7 子どもはあそびが勉強です 社会を広げていくための練習です
- 8 いたずら好きの子どもは「小さな科学者」です 独創性や創造性が育ちます
- 9 「取り返しのきく失敗」はさせてあげましょう 自分自身の判断力が育ちます
- 10 家のお手伝いをさせましょう うまくできなくても うれしい気持ちを伝えましょう
- 11 子どもは親のいうことをあまりききません 親のやることをまねします
- 12 手のかかる子は良い子です お母さんにわかって欲しいサインを出しているのです
- 13 幼児期は 親を困らせたり手こずらせたりする子が自然です 子どもの反抗は親への信頼です
- 14 子どもの話はゆっくり聞いてあげましょう そういう環境づくりが大切なのです
- 15 ウソをつくのは自分が傷つきたくないからです 自主性が育った証(あかし)です
- 16 お母さんお父さんだけでなく 友だちから学び 教えられる経験を持たせてあげましょう
- 17 子どもどうして遊ぶ時間 過ごす時間を たくさんつくってあげましょう
- 18 子どもがつまらないことに 熱中していても それは成長に必要なことです
- 19 うまくできないことを やろうとしたときは できるように手助けしましょう
- 20 お父さんお母さんが小さなことにも感謝できれば 子どもにも感謝の心が育ちます

参考：「佐々木正美先生といっしょ お母さんの安心子育てカレンダー」

－1歳から15歳までの16年間で大切に「子育てのポイント」をまとめました。子育てに携わる家庭・地域・幼稚園・保育園・小学校・中学校の方が、この手引きの内容を共有し、力を合わせて子育てにあたることで、子どもたちの健やかな成長につながっていくことを願っています。よって、このリーフレットを冷蔵庫やトイレの壁などの目の届くところに掲示し、子育てに迷ったときや、子どもの将来を考えるとときには、これを見てたちどまり、一呼吸おいてお子さんと接していただくと幸いです。

平成28年4月 16年一貫教育プラン策定委員会

### 東員町教育委員会 事務局 学校教育課

〒511-0251 東員町山田1700 TEL: 0594 (86) 2815 FAX: 0594 (86) 2854

<http://www.town.toin.lg.jp/> E-mail: [gakkyo@town.toin.lg.jp](mailto:gakkyo@town.toin.lg.jp)



参考文献：児童精神科医・佐々木正美「こどもへのまなざし」福音館書店  
「子どもの心が見える本ー再びエリクソンに学ぶ」子育て協会

すべての子どもたちが、社会でいきいきとした自分の人生を歩めるように



みんなで育てよう! MY 3感・YOUR 3感

基本的  
信頼感

自己  
肯定感

自己  
有能感

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします  
 敵意にみちた中で育った子はだれとでも戦います  
 ひやかして受けて育った子ははにかみ屋になります  
 ねたみを受けて育った子はいつも悪い事をしているような気持ちになります  
 心が寛大な人の中で育った子は自信をもちます  
 ほめられるなかで育った子はいつも感謝することを知ります  
 公明正大な中で育った子は正義心をもちます  
 思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます  
 人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします  
 仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます

(「アメリカ先住民の教え」より)



東員町教育委員会

# ドキドキ子育て!

# 妊娠してから中学卒業までの16年間

# ワクワク子育て!

子どもの誕生を  
楽しみに待つ時期

脳が爆発的に成長する時期

友だちを100人  
作る時期

親友を作る・職業に  
ついて考える時期

胎児に声をかけて  
お母さんがリラックスしよう  
胎児期(-1歳~)

基本的信頼感を育てよう  
乳児期(0歳~)

しつけ  
躰の中で自律性を育てよう  
幼児前期(1歳~)

遊びを通して  
自主性や社会性を育てよう  
幼児後期(3歳~)

勤勉性を育てよう  
児童期(6歳~)

自分を客観的に  
見る目を育てよう  
青年期(12歳~)

胎児は家族の声を聞いている  
お母さんの健康が胎児の健康

生まれる前から胎児は家族の一員です。お腹の中にいるときでもやさしい言葉をたくさん聞かせ、生まれてくる喜びを待ちましょう。



また、音楽を聴き、お母さんがリラックスすることでお腹の中の赤ちゃんもリラックスできます。



お母さんの健康と心の安定が、これからの胎児の発育に大きな影響を与えます。妊婦生活をおもいきり満喫し、快適に過ごしましょう。

泣く=乳児の要求を伝える唯一の手段  
要求が叶うと、信頼が深まる

乳児期の赤ちゃんは、泣くことで気持ちを伝えます。お腹がすいたり、おしっこやウンチをしたり、ねむくなったりするなど、泣く理由はいろいろあります。

大切なことは、それら全ての要求を受け止め、全部かなえてあげることです。よく泣いて手が掛かるということは、乳児期の赤ちゃんが健全に育っているということでもあります。



泣いて伝えた要求が叶うことで、人を信じ、自分を信じていることができる子に育ちます。この時期に、赤ちゃんとのゆるぎない信頼関係を築きましょう。

<ポイント>  
ケイタイやテレビに子守りをさせないことが大切です。



子どもと一緒に身につくまで  
子どものできるを信じて繰り返し

自分で自分のことを決める力(自律)に向けての準備をはじめます。トイレトレーニングやスプーンの持ち方など、躰を通して育てます。それらはすぐには身につきません。「繰り返し伝えていく」「できると信じて見守る」気持ちを大切にしましょう。



子どもの“できる”を信じ、一緒に待ちましょう。そして、できたときは一緒に喜んでみましょう。

<言葉がけの例>  
○「少しずつできるように がんばりましょう。」  
○「待っていてあげるからね。」  
×「何度言えば分かるの。」  
×「さっさとしなさい。」

子どもは小さな科学者  
失敗や友だちとのトラブルこそ学びの場

好奇心旺盛で、遊びを通して「学ぶこと」「試すこと」「考えること」「想像すること」「創り出すこと」に意欲をもちます。(ブロック、積み木、砂場など)



大人にとっては単にいたずらとしか思えない行動を、何度も繰り返しますが、失敗や友だちとのトラブルこそが学びの場であるととらえ、子どもの知識や体験を増やしましょう。また、この頃になると、仲間とともにルールを作り、遊び始めます。子どものできることを信じ、善悪をこの頃に教えていきましょう。

<ポイント>  
できた時には認め、自尊心や自己肯定感を育てましょう。



友だちから学び、友だちに分かち与える  
友だちを信じる基本的信頼感がベース

勉強や遊びで友だちと教え合ったり、考え合ったりすると、周りから期待されることを日常的に行動できるようになります。

大人から学んだり、一人で学んだりすることにも価値があります。しかし、この時期の子どもは、「友だちをたくさん作る」「友だちから学ぶこと」「友だちに教えること」が最も大切です。



学習やさまざまな経験を通して、子どもたちに「自分なりにやっつけられる力がある」「努力すれば自分なりにやれる」という有能感が身につきます。自分だけでなく、友だちを大切にすることを尊重し、関わりの中から学び、教え合うことに喜びを感じられる子に育てましょう。

自分を客観的に  
見る目を育てよう

「やりたいことと、やれること」「なりたいたいものと、なれるもの」その間で葛藤するのが青年期です。

尊敬している人や憧れの人に会ったり、職業観を持ったりすると、子どもたちは意欲を持ちます。



誰もがさまざまに思い惑う悩みの多い時期にあたり、自分という「人間探し」をしています。子どもの憧れや夢に共感し、応援すると自信をもって意欲的になります。反対に、子どもは抱いた憧れや夢を否定されると、一歩踏み出す自信が持てなくなります。「どうせ無理」ではなく、「だったらこうしてみたら」というアドバイスを大切に、自立に向けて支えましょう。

- 胎児は妊娠20週頃から音を聴いていると考えられています。
- 話しかけることで胎児期から信頼関係を築くことができます。
- また、お母さんの健康状態が胎児へ影響します。家族みんなで
- お母さんを支えることが大切です。

- ミルクを与えたり、おむつを替えたりするという関わりが「基本的信頼感」を育みます。
- 赤ちゃんが話せなくても、しっかりと顔を見て語りかけ、心と心を通わせる関わりをしていくことが大切です。

- 子どもが自分でやれたがる気持ちを尊重します。子どもの失敗は当たり前のことと心得て、いつか成功するというおおらかな気持ちで関わります。そして、できたときは一緒に喜んで合うことが大切です。

- 「見守ること」「待つこと」によってできることが大幅に増えていきます。できることが増えれば、自分でやろうとする気持ち(自主性)が高まります。ルールを守り合う人間関係の基礎を育てるため、友だちと十分に遊ぶことが大切です。

- 友だちから学び、友だちに教える時期にあたり、たくさんの友だちと関わるのが大切になります。多くの友だちと関わり合う中で、教え合いや学び合うことが「勤勉性」を育みます。子ども同士のつながりを親同士も大切にします。

- 将来の自分に対する職業観が持てたとき、子どものやる気スイッチがONになります。そのため、職業体験を通して自分の夢を自覚させます。また、お家の方の職業観を聞かせたりして、夢を語り合うことも大切です。

※勤勉性とは...社会から期待されることを日常的に自分から行動できること。学校では、友だち同士で教えたり、教えられたりできること。